



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年2月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '09 神通研集会報告⑤ ～

◎「災害時の

より良いコミュニケーションの取り方について」

手話サークルには音声日本語と手話という2つの言語がある。

聴こえない人と聴こえる人と言う2つの文化がある。文化が異なれば、お互いの気持ちにズレが生じやすくなる。意見を言い合って、確認し合うという積み重ねがコミュニケーションの基本。意見交換を重ねていくことが大切。

<3つのコミュニケーション方法>

- ①「自分が正しく、あなたは違う」という自分中心の方法
 - ②「それで構わないです」という相手中心の方法。
 - ③お互いを認め合う方法。
- 3つとも大切な方法。その時々での使い分けが大切。

<グループワークでの大切なポイント>

- ①情報を共有し、内容の確認をする
- ②順位づけの理由(価値観)をきく
- ③順位づけするルールを作る
- ④一人のゴリ押しや多数決で決めない
- ⑤大切なことは話し合う

～ 定例会 '10/2/28 (日) ～

地域での防災訓練に聴こえない人と参加するときの通訳の関わり方についての意見がありました。

確かに情報保障という面では、通訳は必要なのですが、地域の手話を知らない人たちとコミュニケーションをとる機会を妨げてしまう側面もあります。

その時々で、通訳の人の関わり方が異なってきます。情報保障しながら、地域の人と聴こえない人が接する機会を促していく。防災訓練時の留意点ですね。

【次回定例会】

'10/3/28 (日) 12:10~14:00

県民サポートセンター 701

～サークル研究班メンバーのささやき～

2月のサークル班定例会が行われた2月28日。少々の遅刻で定例会へ行く予定が、チリ大地震による津波の影響で、神奈川県内のJRがあちこち運休。おかげで、定例会に行けなくなってしまいました・・・。

チリと言えば地球の裏側。改めて自然の力に抗えない、人間の非力さを感じた日でした。

津波の影響で電車が運休になったこと、ちゃんと聴覚者に伝わったかな・・・?

情報保障についても考えさせられた日となりました。

ペンネーム Fun×3